

## 令和7年度 第2回みんなで支える森林づくり北アルプス地域会議

**開催日時** 令和8年2月18日（水）13:30～16:00  
**開催場所** 大町合同庁舎 101・102号会議室、大町市内（現地視察）  
**出席委員** 小山委員、鈴木委員、長沼委員、西澤委員、藤原委員、手塚委員、渡辺委員  
**事務局** 柳原北アルプス地域振興局長、坪井林務課長、三村企画幹兼林務係長、  
山田課長補佐兼普及林産係長、清水主任森林経営専門技術員、守谷担当係長、  
山口森林保護専門員、日名子技師、伊藤技師

### 1、室内会議

#### (1) あいさつ：北アルプス地域振興局 柳原局長

本年度2回目の地域会議ということで皆さんお集まりいただき誠にありがとうございます。

森林税の第4期がR5年度から始まって、R7年度が3年目ということで中間の折り返しを過ぎて最後の仕上げに入っていました。

1回目の地域会議でも申し上げましたが、森林税の切り替え時に林務部に在籍しておりました。1年間の勤務でしたが、この森林税の更新の作業に森林政策課長という立場で携わっていました。

森林税の活用につきましては、第1期から第3期までは間伐を中心に検討してきました。第4期では、「森林の状況」や「木材の状況」など、当時はウクライナの問題で、世界的に木材の価格が乱高下しており、県産材、地域材に目を向けようという機運の中でした。森林の成熟度が年々増していく中で、資源としての森林に着目し主伐・再造林を拡充していこうということで、当時、森林関係の補助金だと9割が高率補助でしたが、知事の一言で10割補助となる経過がありました。

これは、主伐・再造林を手厚くしても、森林として成熟するまでには、かなりの年月を要するので、森林の地主の方の負担や森林作業する方の負担もあり、また、他県でも10割補助を行っている事例もあり、それに切り替えようということで位置づけをし、第4期の森林税活用の大きな部分を主伐・再造林に切り替えるということでスタートしたものでございます。

現在の3年経過した状況でございますが、当時、地域森林計画（10年計画）の見直しをしていて、本県の「約100万ヘクタール」の森林の10分の1である「10万ヘクタール」を80年サイクルで毎年、主伐・再造林すると「1,250ヘクタール」を年間で実施する面積として機械的に算出をしました。

当初、主伐・再造林面積はあまり伸びていませんでしたが、補助金を入れて何とか1,000ヘクタールに近づけるように動き出しました。

現状は、当初計画の3分の1の「479ヘクタール」となっています。スタート時と比較すると、佐久地域などは、カラマツの主伐・再造林が目に見える形で進んでいます。県全体で見るとまだまだ進んでいないという状況もありますので、地域会議の委員の皆さまから県の動きなど踏まえながら、この地域の森林をどうしていくかという忌憚のないご意見をいただきたいと思っています。

加えまして、去年はクマが大きな課題で、大町市では死亡事故が起きており、私どもも、非常に重く受け止めているところです。

国の経済対策の中にクマ対策パッケージが入ってくる状況で、国も県もクマ対策に向けて予算も含めて力を入れております。

基本的な対策の一つとして、ゾーニングのための緩衝帯整備があり、そういう補助金を増やす予算編成を議会にお諮りしているところです。1回目の地域会議でも、クマの関係で様々なご意見をいただいております。私どもには、直接の予算編成の権限はありませんが、県庁の予算編成の段階で局長提案という形で、ご意見を申し上げさせていただきました。

地域の皆さまの意見を形にすべく、地域振興局として取り組んだ経緯がございますので、本日の会議の中でその部分を触れさせていただければと思っています。

いずれにいたしましても、人口が減っても森林の面積も変わらずに、この環境を維持していくというのが大きな課題でございますので、その点も含め、大所高所からご意見をいただければ幸いです。本日の会議が有意義なものとなることをご期待申し上げて、挨拶とさせていただきます

本日は、よろしく願いいたします。

## (2) 会議

- |                                |     |
|--------------------------------|-----|
| 1) 第1回 北アルプス地域会議の意見について (回答)   | 資料1 |
| 2) 令和7年度 森林づくり県民税活用事業の実施状況について | 資料2 |
| 3) 令和8年度以降の地域会議開催 (案) について     | 資料3 |

### (渡辺委員)

意見につきまして何点か申し上げたいと思います。

森林の状況について、50年から60年生の成熟した収穫時期が来ており、主伐・再造林を推し進めるということについては、林業事業者としても進めているところですが、大きな課題として二つほど意見させていただきます。

一つは再造林についてのシカの被害です。

再造林は、伐採して植栽して保育していく必要があります。しかし、大町市内の現場を見てきましたが、8割ぐらいが食害にあっている状況です。年2回の忌避剤散布を行っていますが、シカが非常に増えています。5年後にはあと3倍ぐらいになるということを行う方もいる中で、シカの制限頭数ができるのは人間しかいないので、その頭数を減らすための対策を、“どこがやるのか”“誰がやるのか”という問題だと思っています。

林業事業者は、消費者側であり限界があります。また、猟友会は、人手不足等で限界があります。私の一つの要望はガバメントハンターを何人も増やしていただき、行政の仕事として、シカの個体数を減らす取り組みを日常的にやらしてもらわないと、シカの爆発的な増加に対応することは難しいと考えています。

もう一つは、伐採搬出経費についてです。

伐採木して、木材として出荷していくわけですが、出荷する場所は、貯木場と呼ばれるトラックが入る広いところです。しかし、林道の入口が狭く、曲がりくねった、細い林道ばかりなので、少し入ったところで林業活動をして、そこからトラックが入ってくるが出来ないため、1回、貯木場まで運び出す工程が加わります。それを小運搬といいますが、その費用が出ないんです。

主伐・再造林を強く推し進めていくのなら“小運搬費用”を検討してもらいたい。

この二つが、主伐・再造林への意見です。

そのほか、地域会議開催についてですが、森林税の活用を検討するため、地域の代表という立場から、視察を通して知らないことを知り、意見交換ができる場であることから、魅力的な内容にして年2回ぐらいは必要と思います。

(林務課 三村企画幹)

シカの関係についてですが、猟友会の頑張りもあり、県目標としている 320 頭の捕獲目標に対して、昨年度は約 500 頭捕獲しております。また、今年の現時点では、約 300 頭を許可捕獲しています。狩猟による捕獲と併せると昨年度と同程度の捕獲数と見込んでおります。ただし、この地域の捕獲数が上がっても、他の地域から入ってくるという問題はどうしても起きてしまいます。

大町市などは、7,000 円/頭の定額補助をさらに加算して、20,000 円/頭にして報償費を出すなど、それぞれ市町村も工夫して捕獲対策を推進しています。

シカの食害対策について、この地域会議の意見を県へ繋げてまいります。

また、捕獲以外の防除対策を並行していくことが重要ですので、忌避剤散布や防護柵設置などを併せて対応することが重要ですので、よろしくをお願いします。

(林務課 山田補佐)

木材を搬出するのに、小運搬が必要なことは承知しております。

森林税が始まった当初、使える補助メニューは保育間伐だけでした。保育間伐は切り捨てですので、里に近い山にただ切って捨てるのはもったいなということで、その当時は、搬出支援というものはありませんでしたが、搬出間伐ができるようになったことから、搬出支援のメニューが無くなった経過があります。

確かに、小運搬費用もある程度考慮していかないと、経費が掛かり、木材価格が上がらない中では、主伐・再造林は進んでいかないと思いますので、ご意見は県に繋げてまいります。

(林務課 坪井課長)

来年度以降の地域会議の関係につきましては、渡辺委員さんから森林税がうまく活用されているのかよく見てみたいということで、視察や意見交換を行い魅力ある内容にしていただきたいとご意見をいただきました。他の委員さんご意見ございますか。

(鈴木委員)

私自身、全く林業分野に携わっているわけではないので、年 2 回でも理解できないことが多いのに、それが年 1 回となると本当に何の役にも立てないと思って今のご提案を伺いました。

いろんな森林関係の方の声も聞いてみたいと思ったりする中で、違う形でもう 1 回お手を煩わせない形で、私達が企画するような交流会でもいいからできたらなっている気持ちです。

(林務課 坪井課長)

はいありがとうございました。

他の委員さん方も年 2 回ということで、引き続きということでよろしいでしょうか？

(鈴木委員)

今まで通りじゃなくてもいいですね。

(林務課 坪井課長)

はい、交流会というご意見もいただきましたので、考えさせていただければと思いますのでよろしくお願いします。

それでは資料 3 につきましては、来年度以降 2 回開催をさせていただくということで、よろしいでしょうか。

(渡辺委員)

鈴木委員の意見は、何か違った切り口が欲しいということだと思います。

(藤原委員)

私は本当に何も知らないのですが、この会議にいていいのかなという気持ちで出席させていただいております。

何か自分がここにいる意味っていうか、何かのお役に立てるのかっていう気持ちになつたりもするので私達も活用してほしいという気持ちがあります。

(渡辺委員)

林業だけではなく、県民の代表としての意見も重要と思います。

(林務課 坪井課長)

この場で、どのようにするか決定するのは難しいので、どんな仕掛けがいいのかというのは、こちらの方で練らせていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

他ご意見はいかがでしょうか。

(渡辺委員)

製材の立場から、西澤委員なにかありませんか。

(西澤委員)

地域材だけを主に生産させてもらっている立場の中で、この地域に乾燥施設がないのは、どうしても販路が拓げない感覚があります。私自身がやらなければいけないことかもしれないですけども、冬の間は工場も動かせなかったりとか、企業体力がないという部分もあつたりします。

小谷村でいいますと、公共建築の骨組材や内装材に活用してくれた時期もありますが、人が代われれば、買う側の人も代わり考え方も変わってくる。

例えば、学校で言えば、先生方も入れ替わり、時代も変わりゆく中で、小谷小学校が開校する前に、私どもの地域の林業屋さんとかでグループを作り、子供たちが使う、机と椅子を地域の木で作製し導入させてもらうことに、県の試験場にもご協力いただきながら何とか成功しましたが、ここ数年の間全部スチール製に変わってしまいました。

それはなぜかっていうと、その当時の教育委員会から私どものグループには、この高さ調整ができるものがいいという先生方からの希望っていうものが伝えられてきてて、高さ調整することによって部材の数も多くなり、根本的なものを達成するためにちょっとずつ部材が大きくなっていき重量的にもものしてってしまう。それでも、小谷小学校の学習机や椅子について、スギでという私どもの希望もありました、当時、安曇野市や松本市で導入されていたカラマツ材の製品よりも遥かに軽くできたんですが、それでも、学校の先生方からやっぱり高さ調節するのはちょっとやっぱり面倒だし、普通の固定式のものに比べたら重いっていうようなことで、教育委員会と話をしてスチール製に更新されてしまった。

教育長に対しては、子供たちが使う机にするのに、村民の方が所有する杉を供出してくれないかっていうようなことをお願いして、何名かの方から供出いただいて、私どもで、それを伐採したり、運搬したり、乾燥させて加工して納めさせてもらったっていう。自分としては物語といますか、そういうものができて、それがずっと続いていければ子供達にとっても、自分達が学んだ机や椅子は、そのときは分からなかったけど、村民の方たちからいただいた木で作られてたんだっていうことが、いつか気づくときが来ればなんて思ってたんです。それが、当時の教育長さんには伝わらず、「そういうものじゃちょっと大変だから違うものに変えようと、それがいつかわからないけど、もしもそういう話が出るようなことがあったら、ぜひ、お話しくださいね。」というお願いをしてあつたんですけども、そういったこともかなわずに、変えられてしまいました。

もう数年前の話ですが、そのときにその話を聞いた時点では半分ぐらい作製してあり、残りの半分も今年度の予算でとっていうのを聞いていたので、教育長に苦情を述べに行つたんですが、その当時のことを知らなかったみたいで、前任から話を聞いて「いや申し訳なかった」と言われましたが、そういう話もちよつとうまく伝わっていれば、あるいは、私が、常に教育委員会に顔を出していればよかつたかなとも思いました。

村の公共建築なんかでも、外壁を村産材にしてくれた、村営住宅もありましたが、メ

メンテナンスが行き届かない中で、再塗装するかそうでない方法を取るかとしたときに、鉄板サイディングを張られてしまいました。

それも残念で、村も公共建築における木材の利用指針を作成しているにも関わらず機能してないというのが残念です。小谷村は雪が降るので構造材としては心配な部分やあるいは外壁でも雪がくっついてきて、春先になると引きずり下ろすような力も働いたりする中で、大変だったりするのかなんていうことも当然わかるんですけどもちょっとそんな村の事情を説明してみました。

(林務課 山田補佐)

貴重なお話ありがとうございました。この管内の製材所は、数か所ございますが、乾燥施設がないことは課題として受け止めております。

今年でございますが、地域の木工作家さんが使えるぐらいのものであれば、天然乾燥とビニールハウスを使っての乾燥もいいんじゃないかということで、試験的に実施しております。これは、大町市内の農業法人の方にお借りして、田をやっている方なんですけど苗を育ててしまえば、あと夏からは空いてるということで、そこをお借りして乾燥試験をさせていただきました。

結論から申し上げますと、構造材については、それに見合ったものはできませんが、木工製品や家具などの材料であれば、ビニールハウス乾燥でも可能でしたので、来年度も引き続き試験的なものやっけていきたいと考えております。

(林務課 山口森林保護専門員)

小谷村で、地域材を使って机と椅子を作っていたのは、県内でも先駆的な取り組みで、その後いろんな地域でやり始めたという取り組みです。私も楽しみにしていましたが、小学校に行ったらスチール製に変わっていて、本当に残念としか言いようがありません。

私が3年前に赴任したときは、地元の木を地元で使われていなかったもので、それから木材利用促進連絡会議を立ち上げて、行政間で木材利用の情報共有を促進するという目的で、今年木曾町に市町村の担当者と一緒に、視察に行っていました。

木曾町は木材利用すごく進んでるので、かなりの刺激を受けていただき、市町村も少しずつですが、木材利用が進む流れになっています。

小谷村は、元々いろいろやられてた地域なので、そういう取り組みも始まっています。県としては、1市町村だけではなく広域で考え、いろんな市町村と協力し木材利用を進めていけるような窓口的な役割を担っていければと思っています。

(林務課 坪井課長)

ありがとうございました。

この後現地視察があり時間の都合もございますが、もうお一方だけ、発言したいという方がいらっしゃいましたら、お願いします。

(長沼委員)

猟友会の立場からご意見させていただきます。

シカ捕獲について、全面的に協力している背景はございますが、猟友会に所属している方の殆どが、11月15日から2月15日の狩猟を趣味としています。

正直申し上げますと、去年、一昨年あたりからマンパワーが不足しています。春であろうと夏であろうとくくりワナをかけたのシカ捕獲が、非常にストレスになってるっていうのが正直なところなんです。

1頭捕獲されれば、そこに置いておくわけにいかないんで、処理をしなければならぬことになります。私の所属する大町支部の場合は、約30名がくくりワナをかけると交代で当番制の見回りをしますが、それは早朝の5時とか6時ごろ見回りをして、捕獲されていたら私(支部長)のところに連絡がきます。見回りをした人達は自分の仕事があるので、7時頃引き上げていきます。その後の処理を正副支部長とか事務局とかの人

達が自分の仕事を後回しにして、シカ処理を行うというようなことがあります。確かに報償費はいただいておりますが、自分の仕事をないがしろにしなければいけないという部分もあります。それは各支部それぞれ同じテーマで、先ほど話したように非常にストレスになっております。それほど、このシカの増え方が尋常ではないです。

そうしたときにはもう、猟友会単位でなく自治体で、そういったことに時間をさける人材を確保する。若しくは、民間の中でそういう事業をやられてる企業体が、県内にもありますし、また、県外の事例では、静岡や山梨の富士山の麓では、3ヶ月とかの期間を区切り、それぞれの事業者は何百頭捕獲というような契約をしている話も聞きます。

本当にプロのハンターたちですよ、そういうところも活用しないと、これからは対応しきれない部分まで来ているのかなというのが正直な意見です。

先輩たちのハンターの皆さんは、自分の山という縄張り意識が非常に強いので、狩猟期間に獲物を捕るために、入ってくるフィールドに民間の事業者が有害駆除に入ってくることはものすごく嫌っていましたが、私達の世代はそのような考えはないので、民間事業者にお願いできる部分があれば、積極的に進めていただきたいと思います。古い考えの先輩ハンターの方は、これからフィールドには出なくなりますので、そういうすみ分けをしていかないと、猟友会はあくまでも趣味だし、シカがこれだけ増えてしまうと猟友会が数頭単位で捕獲しても対応しきれないと考えております。

(林務課 三村企画幹)

猟友会の高齢化が進み、会員が少なくなる支部も出てくる中で、広域連携による捕獲を検討する方法もありますし、一つの提案として先ほど言われたように、民間の業者に委託することも一つの方法だと思います。夜間銃猟の訓練をすれば、夜間銃猟による捕獲もできるようになっております。そういうことが出来れば、効率的に捕獲できると思います。

いずれにしても、地方自治体が絡まなければ実現しないことだと思いますので、地域の声として「いままで、シカがいなかったこの地域でシカが増えている」ことを踏まえながら、県に伝えてまいります。

(林務課 坪井課長)

ありがとうございました。

まだ、ご意見がある方もいると思いますが、この後、視察がございますのでここで一旦の会議事項を終了させていただきます。



室内会議の状況  
(委員：7名)



現地視察の状況

木質バイオマス供給施設  
(北アルプス森林組合)



現地視察の状況

チップボイラー施設

(株レゾナック・グラファイト・ジャパン)



現地視察の状況

チップボイラー施設

(株レゾナック・グラファイト・ジャパン)